



# ネットワークビューのセットアップとモニター

---

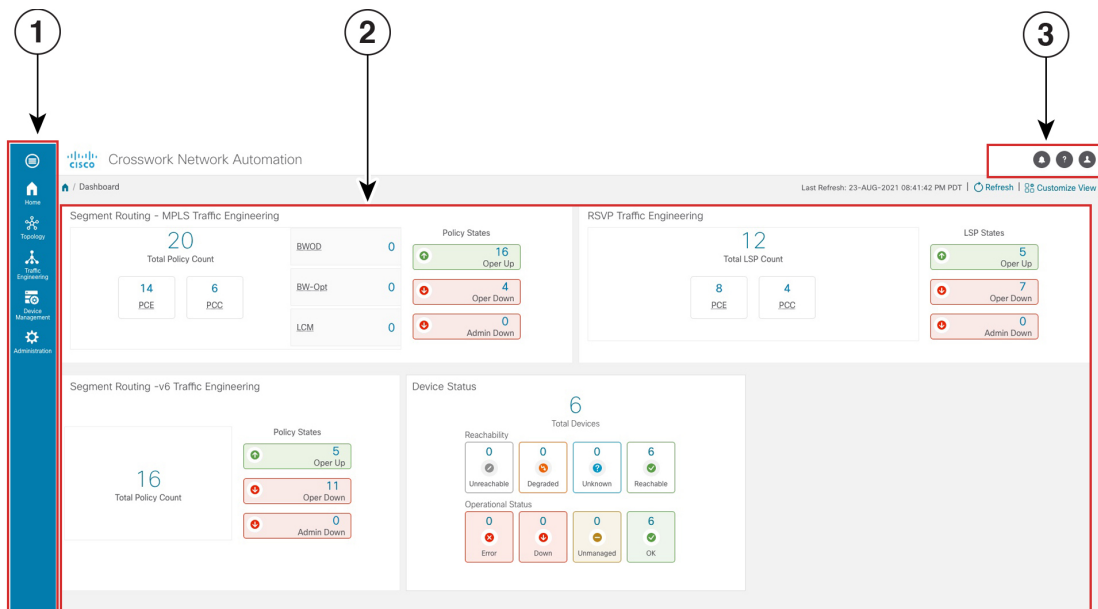
SR ポリシーと RSVP-TE トンネルを管理する前に、UI をよく理解して、ネットワークビューを設定します。ここでは、次の内容について説明します。

- [ダッシュボードでのクイックビューの取得 \(1 ページ\)](#)
- [トポロジマップでのデバイスとリンクの表示 \(3 ページ\)](#)
- [デバイスグループを使用したトポロジビューのフィルタ処理 \(12 ページ\)](#)
- [マップ表示設定のカスタマイズ \(17 ページ\)](#)
- [タイムアウトの設定 \(18 ページ\)](#)
- [簡易アクセスのトポロジビューの保存 \(19 ページ\)](#)

## ダッシュボードでのクイックビューの取得

ホームページにはカスタマイズ可能な一連のダッシュレットが表示され、デバイスの到達可能性や動作ステータスなど、管理対象ネットワークの運用の概要がひと目でわかります。各ダッシュレットには、同じカテゴリに属しているさまざまなタイプのデータが表示されます。

図 1: Crosswork のホームページ



522051

引き出し線番号	説明
1	<p><b>メインメニュー</b>：メインメニューでは、インストールされている Cisco Crosswork アプリケーションと、デバイス管理および管理のタスクに移動できます。メニューオプションは、インストールされている Cisco Crosswork アプリケーションによって若干異なる場合があります。</p>
2	<p><b>ダッシュレット</b>：情報は、インストールされている Cisco Crosswork アプリケーションによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ダッシュレット内の詳細情報をドリルダウンするには、値をクリックします。クリックしたフィルタ処理済みデータのみを表示するウィンドウが表示されます。</li> <li>• ダッシュレットのレイアウトを追加または変更するには、[ビューのカスタマイズ (Customize View)] をクリックします。ダッシュレットを目的のレイアウトに移動し、[保存 (Save)] をクリックします。</li> </ul>

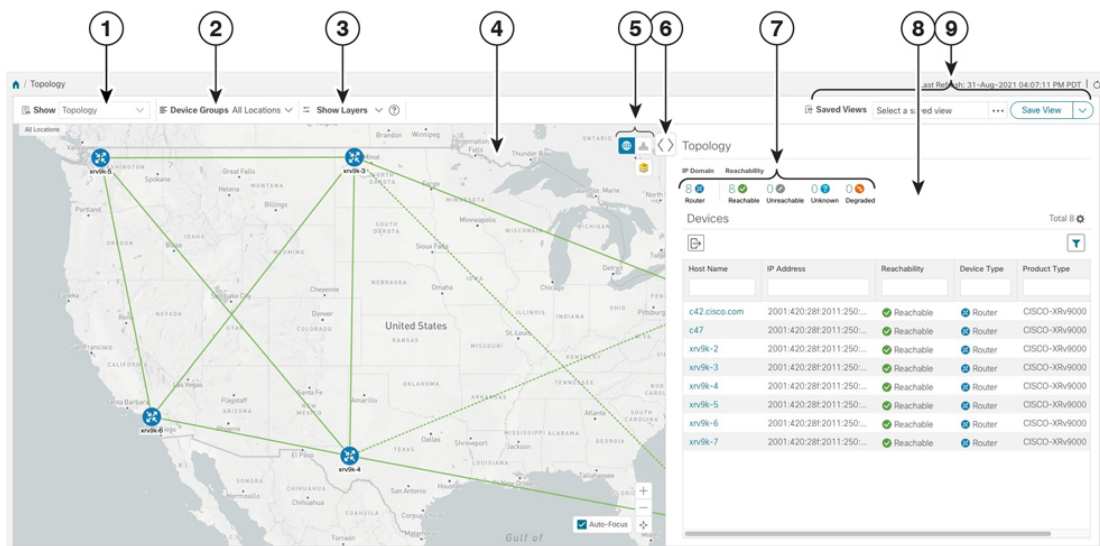
引き出し線番号	説明
3	<p>設定のアイコン：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>④ [アラート (Alerts) ]アイコンは、注意が必要なシステム操作に関連する現在のエラー状態を通知し、それらの状態に関する詳細情報へのリンクを提供します。</li> <li>⑤ [イベント (Events) ]アイコンは、システム操作に関連する新しいイベントを通知し、すべてのシステムイベントの履歴にアクセスできるようにします。</li> <li>⑥ [バージョン情報 (About) ]アイコンには、Cisco Crosswork 製品の現在のバージョンが表示されます。</li> <li>⑦ [ユーザーアカウント (User Account) ]アイコンを使用すると、ユーザー名の表示、パスワードの変更、ログアウトを行えます。</li> </ul>

## トポロジマップでのデバイスとリンクの表示

ネットワークトポロジマップを表示するには、メインメニューから[トポロジ (Topology) ]を選択します。

詳細については、「[デバイスとリンクの詳細の表示 \(6 ページ\)](#)」を参照してください。

図 2: Cisco Crosswork UI とトポロジマップ



522060

引き出し線番号	説明
1	<p>[トポロジマップビュー (Topology Map View) ] : [表示 (Show) ] ドロップダウンリストから、マップに表示するデータを表示するオプションをクリックします。</p> <p>[トポロジ (Topology) ] を選択すると、ネットワーク内のデバイスとリンクが表示されます。</p> <p>[トラフィック エンジニアリング (Traffic Engineering) ] を選択すると、TE トンネル情報が表示されます。トラフィックエンジニアリングのトポロジマップの詳細については、「<a href="#">トポロジマップでの SR-MPLS および SRv6 ポリシーの表示</a>」および「<a href="#">トポロジマップでの RSVP-TE トンネルの表示</a>」を参照してください。</p>
2	<p>[デバイスグループ (Device Groups) ] : ドロップダウンリストから、マップに表示するデバイスのグループをクリックします。他のすべてのデバイスグループは非表示になります。</p>
3	<p>[表示/非表示 (Show/Hide) ] : ドロップダウンリストから、マップに表示するネットワークレイヤをクリックします。選択したレイヤに属するすべてのデバイスとリンクが表示されます。デフォルトでは、すべてのレイヤが表示されます。</p>

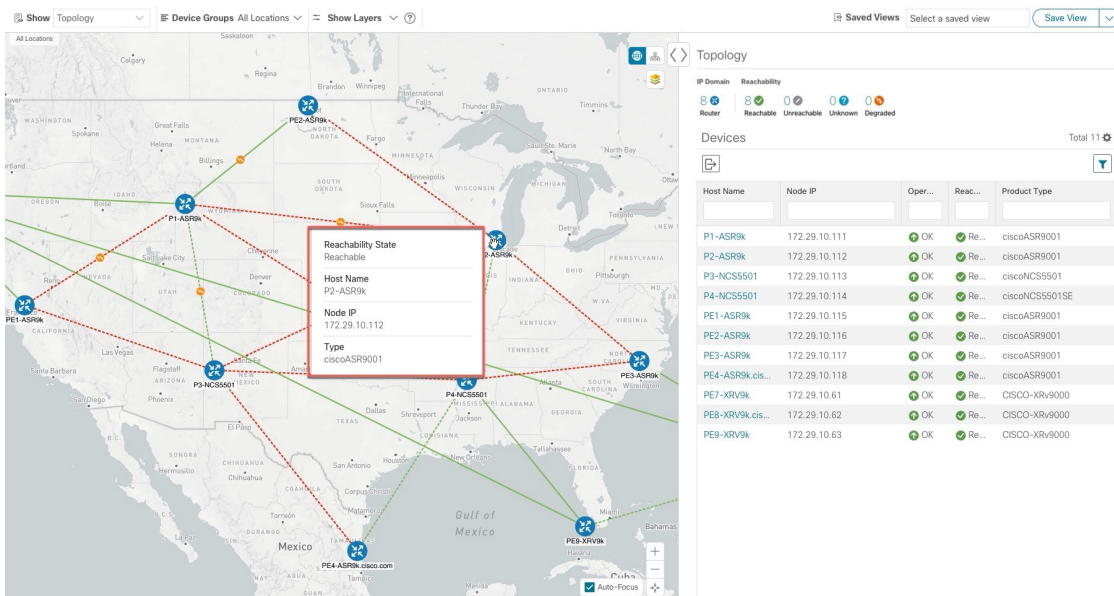
引き出し線番号	説明
4	<p>[トポロジマップ (Topology Map) ]: ネットワークトポロジは、論理マップまたは地理的マップに表示できます。ここでは、デバイスとリンクが地理的コンテキストで表示されます。マップでドリルダウンすると、デバイスとリンクに関する詳細を確認できます。</p> <p>[デバイス (Device) ]:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• デバイス設定の概要を表示するには、マウスカーソルをデバイスアイコンの上に合わせます。ホスト名、状態、ノードID、およびデバイスタイプを表示するポップアップウィンドウが表示されます。</li> <li>• デバイスの詳細を表示するには、デバイスアイコンをクリックします。</li> <li>• デバイスが物理的に近接している場合、地理的なマップはそれらをクラスタとして表示します。青色の円内の番号 (4) は、クラスタ内のデバイスの数を示します。この方法でデバイスを表示すると、マップ上での重複や混乱を防ぐことができます。</li> </ul> <p>[リンク (Link) ]:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 実線は、2つのデバイス間の単一リンクを示します。2つのデバイス間、またはデバイスとデバイスのクラスタの間に複数のリンクがある場合は、代わりに線は点線で表示されます。破線は、複数のリンクを表す集約リンクか、または同じ物理リンクでの複数のプロトコル (IPv4やIPv6など) の使用を示します。</li> <li>• A と Z はそれぞれヘッドエンドとエンドポイントを示します。</li> <li>• リンク情報の詳細を表示するには、リンクをクリックします。</li> </ul> <p>(注) デュアルスタックリンクは、集約されていても1本の線で表示されます。</p>
5	<p>🏠: 論理マップは、自動レイアウトアルゴリズムに従って配置されたデバイスとそれらのリンクを示し、地理的な位置は無視されます。レイアウトアルゴリズムを変更できます。</p> <p>🌐: 地理的マップは、単一のデバイス、デバイスクラスタ、リンク、およびトンネルを世界地図に重ねて表示します。マップ上の各デバイスの位置は、デバイスインベントリで定義されているデバイスの GPS 座標 (経度と緯度) を反映します。</p> <p>⚙️: [表示設定 (Display Preferences) ] ウィンドウでは、デバイス、リンク、利用率、フレキシブルアルゴリズム、および TE トンネルメトリックの表示設定を変更できます。</p>

引き出し線番号	説明
6	[サイドパネルの展開/折りたたみ/非表示 (Expand/Collapse/Hide Side Panel) ]: サイドパネルの内容を展開するか、または折りたたみます。トポロジマップを拡大表示するには、サイドパネルを閉じます。
7	[ミニダッシュボード (Mini Dashboard) ]には、IP ドメインとデバイスの到達可能性ステータスの概要が表示されます。フィルタが適用されると、[ミニダッシュボード (Mini Dashboard) ]が更新され、[デバイス (Devices) ]テーブルに表示される内容が反映されます。
8	このウィンドウの内容は、トポロジマップの [表示 (Show) ] に設定されている内容と、デバイス、リンク、SR-MPLS ポリシー、SRv6 ポリシー、または RSVP-TE トンネルの詳細情報を表示することを選択しているかによって異なります。
9	[保存済みカスタムマップビュー (Saved Custom Map Views) ]: 現在のマップの設定とレイアウト、保存済みビューに保存されているテーブルの設定を使用して名前付きカスタムビューを作成したり、以前に作成したカスタムビューを表示できます。また、[デバイス (Devices) ]テーブルと [トラフィック エンジニアリング (Traffic Engineering) ]テーブルに適用されるフィルタもすべて保存されます。

## デバイスとリンクの詳細の表示

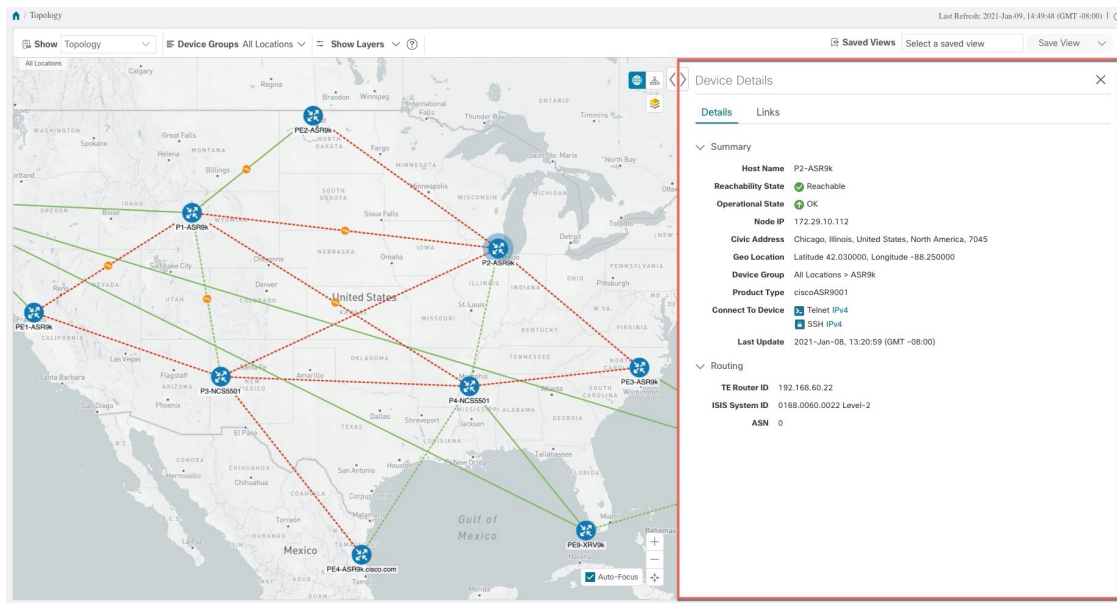
次に、トポロジマップを使用してデバイスとリンクの詳細 (Link Aggregation Group (LAG) の詳細を含む (ステップ 6 参照) ) を表示する例を示します。

- 
- ステップ 1** メインメニューから、[トポロジ (Topology) ]または[トラフィックエンジニアリング (Traffic Engineering) ] > [トラフィックエンジニアリング (Traffic Engineering) ]を選択します。
- ステップ 2** デバイスのホスト名、到達可能性の状態、IP アドレス、およびタイプをすばやく表示するには、デバイスアイコン上にマウスを合わせます。



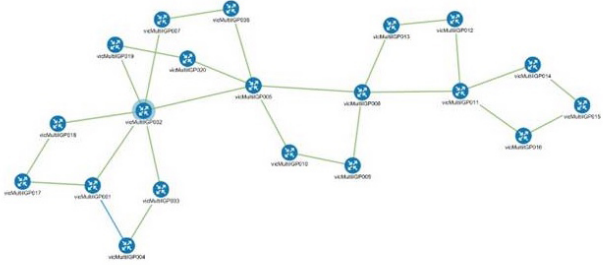
ステップ3 デバイスの詳細をさらに表示するには、デバイスアイコンをクリックします。

a) 次の例は、トポロジマップのデバイスの詳細を示しています。



複数の IGP のセットアップでは、ルーティングの詳細ですべての IGP、IS-IS、および OSPF プロセスを表示することもできます。次の例を参照してください。

図 3: 複数の IGP : OSPF プロセス

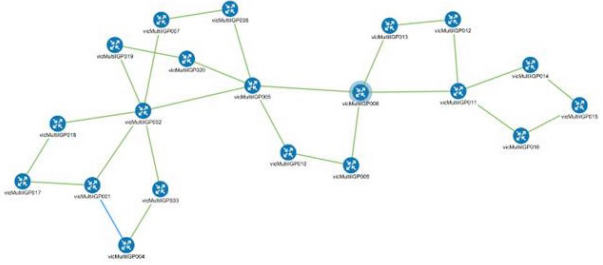


The network diagram shows a mesh of routers labeled vicMultiGP001 through vicMultiGP017. A 'Device Details' panel on the right shows the configuration for vicMultiGP002. The 'Routing' section is highlighted with a green box, showing multiple OSPF processes:

- OSPF Router ID: 192.168.1.2 Area-9911
- OSPF Router ID: 192.168.1.2 Area-9966
- OSPF Router ID: 192.168.1.2 Area-0
- OSPF Router ID: 192.168.1.2 Area-9917
- OSPF Router ID: 192.168.1.2 Area-9912

Other details in the panel include: Host Name: vicMultiGP002, Reachability State: Reachable, Operational State: OK, Node IP: 192.168.1.2, Geo Location: Lat. 0.000000, Lng. 0.000000, Product Type: ciscoCRS16S, Connect To Device: Telnet IPv4, SSH IPv4, Last Update: 2020-Feb-27, 13:41:01 (GMT -08:00), TE Router ID: 192.168.1.2, and ASN: 991.

図 4: 複数の IGP : ISIS プロセス



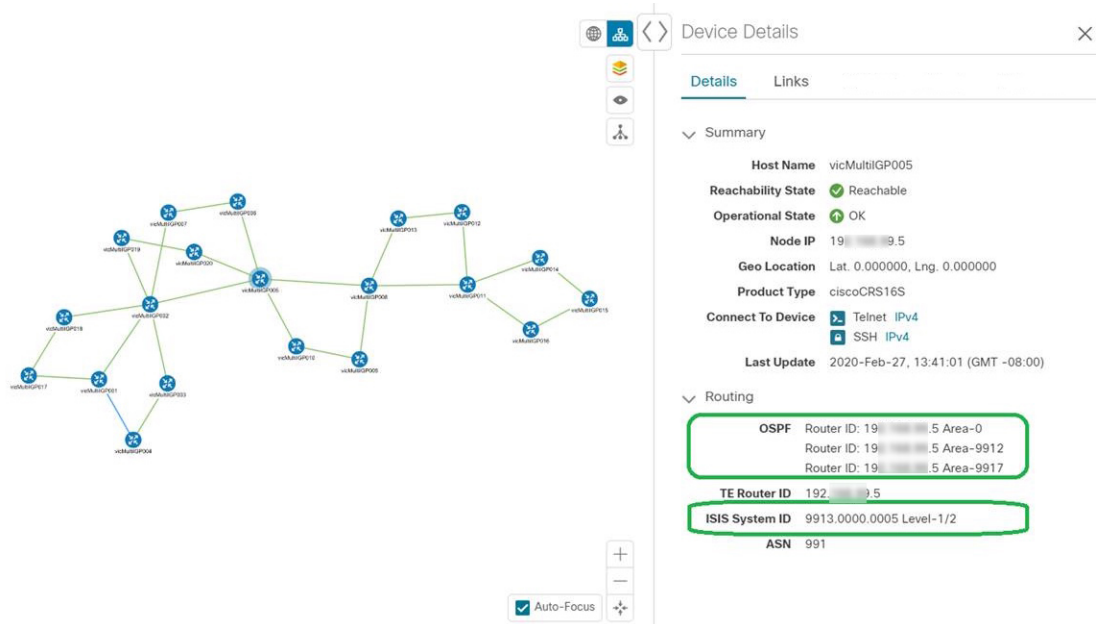
The network diagram is identical to Figure 3, showing routers vicMultiGP001 through vicMultiGP017. The 'Device Details' panel on the right shows the configuration for vicMultiGP008. The 'Routing' section is highlighted with a green box, showing multiple ISIS processes:

- ISIS System ID: 9913.0000.0008 Level-1/2
- ISIS System ID: 9914.0000.0008 Level-1/2

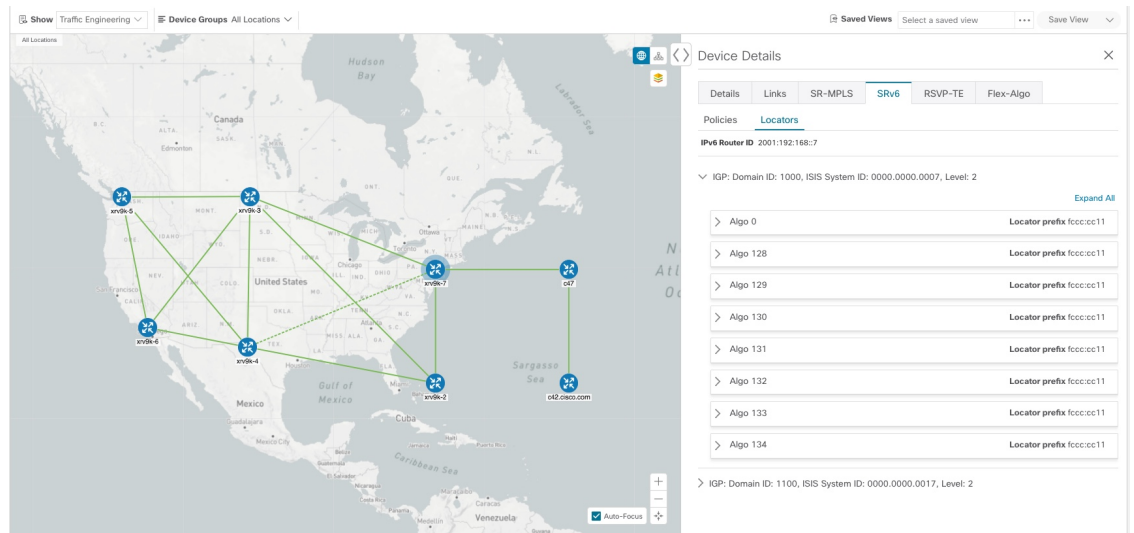
Other details in the panel include: Host Name: vicMultiGP008, Reachability State: Reachable, Operational State: OK, Node IP: 192.168.1.8, Geo Location: Lat. 0.000000, Lng. 0.000000, Product Type: ciscoCRS16S, Connect To Device: Telnet IPv4, SSH IPv4, Last Update: 2020-Feb-27, 13:41:01 (GMT -08:00), TE Router ID: 192.168.1.8, and ASN: 991.



図 5: 複数の IGP : OSPF および ISIS プロセス



b) 次の例は、トラフィック エンジニアリング マップの追加のトラフィック エンジニアリング デバイスの詳細 ([SR-MPLS]、[SRv6]、[RSVP-TE]、および [フレキシブルアルゴリズム (Flexible Algorithm)] タブ) を示しています。この例では、2つのドメインの SRv6 ローターがリストされています。



ステップ 4 デバイスのリンクを表示するには、[リンク (Links)] タブをクリックし、右側のパネルを展開してすべてのリンクの詳細を表示します。

## デバイスとリンクの詳細の表示

State	Link Type	A Side Interface	Z Side Interface	A Side Utilization	Z Side Utilization
+	L3 ISIS IPV4	GigabitEthernet0/0/0/2	GigabitEthernet0/0/0/3	0% (0Bps/1Gbps)	15.35% (153.5Mbps/1Gbps)
+	L2 LLDP	GigabitEthernet0/0/0/2	GigabitEthernet0/0/0/3	0% (0Bps/1Gbps)	15.35% (153.5Mbps/1Gbps)
+	L3 ISIS IPV4	GigabitEthernet0/0/0/4	GigabitEthernet0/0/0/2	20.34% (203.4Mbps/1Gbps)	0% (0Bps/1Gbps)
+	L2 LLDP	GigabitEthernet0/0/0/4	GigabitEthernet0/0/0/2	20.34% (203.4Mbps/1Gbps)	0% (0Bps/1Gbps)
+	L2 CDP	GigabitEthernet0/0/0/1	GigabitEthernet0/0/0/3	0% (0Bps/1Gbps)	22.39% (223.9Mbps/1Gbps)
+	L3 ISIS IPV4	GigabitEthernet0/0/0/3	GigabitEthernet0/0/0/7	8.14% (81.4Mbps/1Gbps)	0% (0Bps/1Gbps)
+	L2 LLDP	GigabitEthernet0/0/0/3	GigabitEthernet0/0/0/7	8.14% (81.4Mbps/1Gbps)	0% (0Bps/1Gbps)
+	L2 LLDP	GigabitEthernet0/0/0/1	GigabitEthernet0/0/0/3	0% (0Bps/1Gbps)	22.39% (223.9Mbps/1Gbps)
+	L3 ISIS IPV4	GigabitEthernet0/0/0/5	GigabitEthernet0/0/0/6	0% (0Bps/1Gbps)	0% (0Bps/1Gbps)
+	L2 CDP	GigabitEthernet0/0/0/5	GigabitEthernet0/0/0/6	0% (0Bps/1Gbps)	0% (0Bps/1Gbps)
+	L3 ISIS IPV4	GigabitEthernet0/0/0/2	GigabitEthernet0/0/0/4	0% (0Bps/1Gbps)	7.33% (73.3Mbps/1Gbps)
+	L2 LLDP	GigabitEthernet0/0/0/2	GigabitEthernet0/0/0/4	0% (0Bps/1Gbps)	0% (0Bps/1Gbps)
+	L2 LLDP	GigabitEthernet0/0/0/5	GigabitEthernet0/0/0/6	0% (0Bps/1Gbps)	0% (0Bps/1Gbps)
+	L2 LLDP	GigabitEthernet0/0/0/2	GigabitEthernet0/0/0/4	0% (0Bps/1Gbps)	7.33% (73.3Mbps/1Gbps)
+	L3 ISIS IPV4	Bundle-Ether9	Bundle-Ether9	0% (0Bps/1Gbps)	22.39% (223.9Mbps/1Gbps)

ステップ5 サイドパネルを折りたたんで、[デバイスの詳細 (Device Details)] ウィンドウを閉じます。

ステップ6 破線をクリックします。破線は、複数のリンクを表す集約リンクを示します。

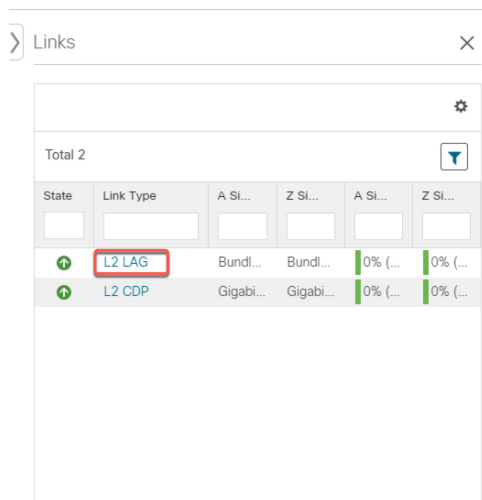
(注) デュアルスタックリンク (集約) は、1本の線で表示されます。

State	Link Type	A Side Interface	Z Side Interface
+	L3 ISIS IPV6	GigabitEthernet0/0/0/1	GigabitEthernet0/0/0/1
+	L2 LLDP	GigabitEthernet0/0/0/6	GigabitEthernet0/0/0/6
+	L3 ISIS IPV4	GigabitEthernet0/0/0/1	GigabitEthernet0/0/0/1
+	L2 LLDP	GigabitEthernet0/0/0/1	GigabitEthernet0/0/0/1
+	L2 LAG	Bundle-Ether2	Bundle-Ether2

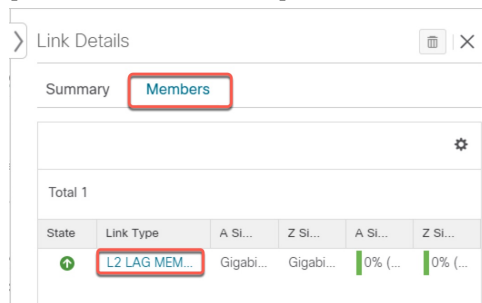
Link Aggregation Group (LAG) のさまざまなバンドルメンバーとメンバーの詳細を表示するには、LAG ディスカバリが有効になっていることを確認します ([管理 (Administration)] > [設定 (Settings)] > [システム設定 (System Settings)] タブ > [ディスカバリ (Discovery)] > [LAG] チェックボックス)。

(注) LAG ディスカバリが有効になった後、LAG 収集が完了するまでに数分かかります。

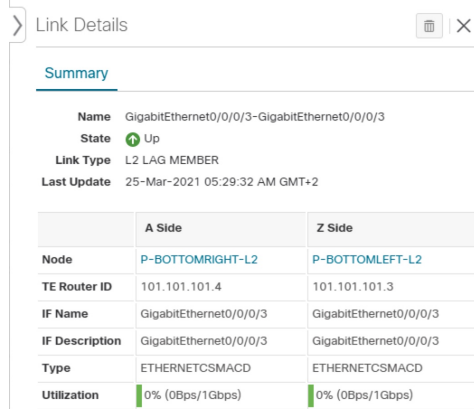
a) [LAG] リンクをクリックします。次に例を示します。



b) [メンバー (Members) ]タブをクリックします。この例では、1つのリンクのみが表示されます。



c) [LAG メンバー (LAG member) ]リンクをクリックします。

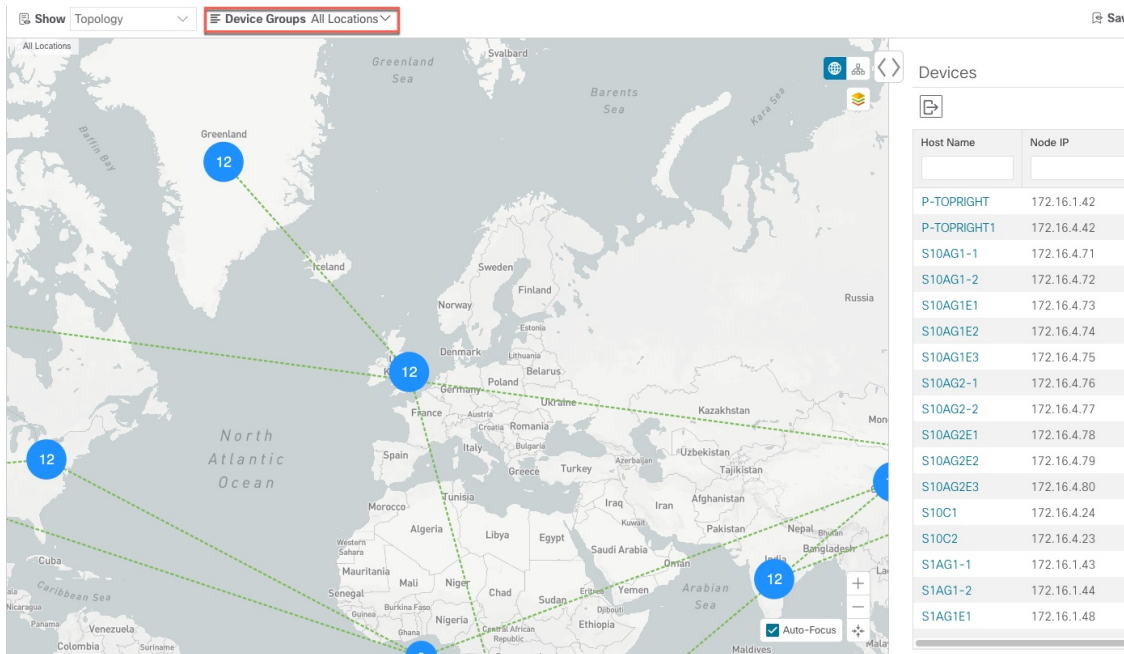


# デバイスグループを使用したトポロジビューのフィルタ処理

さまざまな目的でデバイスを識別、検索、およびグループ化するためにデバイスグループを作成できます。[デバイスグループ (Device Group)] ウィンドウ ([デバイス管理 (Device Management)] > [グループ (Groups)]) には、すべてのデバイスとそれらが属するデバイスグループが表示されます。デフォルトでは、すべてのデバイスが最初は [未割り当てデバイス (Unassigned Devices)] グループに表示されます。


この例では、地理的マップと論理マップでのデバイスのグループ化の仕組みを説明します。

**ステップ 1** メインメニューから、[トポロジ (Topology)] を選択します。デフォルトでは、地理的な位置が設定されているデバイスのみが地理的マップに表示されます。



**ステップ 2** [デバイスグループ (Device Group)] ドロップダウンリストからグループ (米国西部) を選択します。そのグループ内のデバイスと関連リンクのみが地理的マップに表示されます。[デバイス (Devices)] テーブルもフィルタ処理され、グループ内のデバイスのみが表示されることに注意してください。

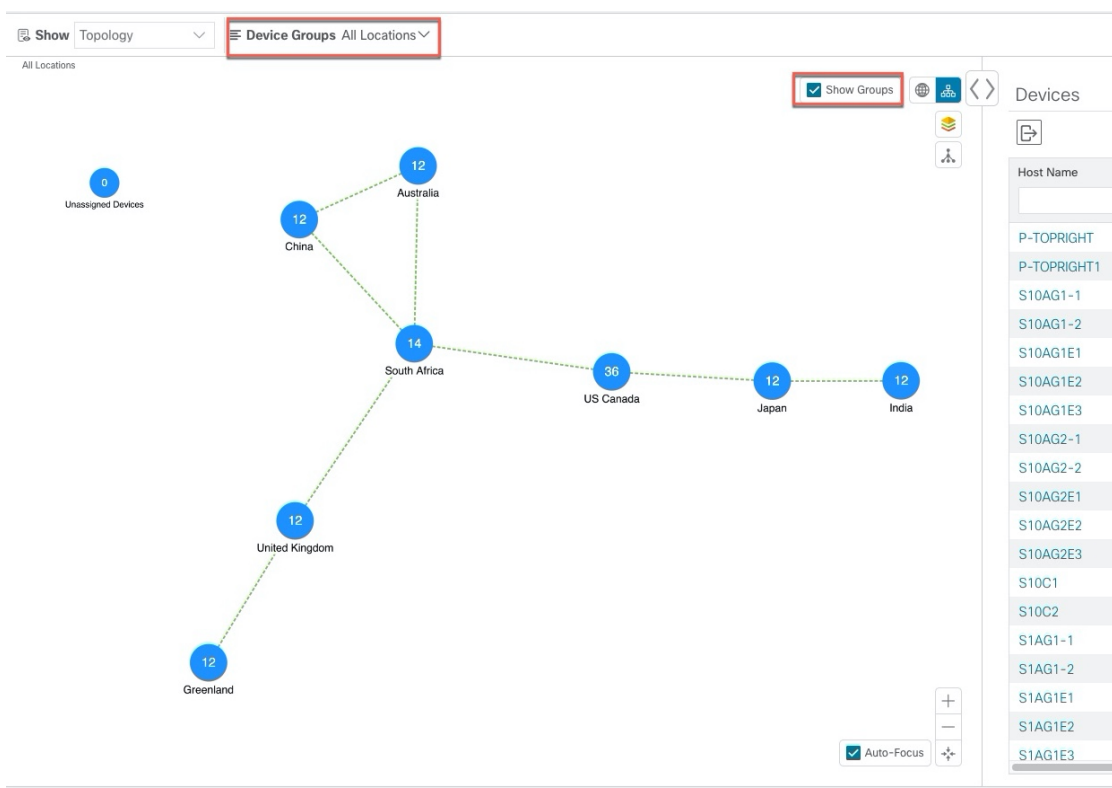
Host Name	Node IP
STAG1-1	172.16.4.38
STAG1-2	172.16.4.37
STAG1E1	172.16.4.34
STAG1E2	172.16.4.35
STAG1E3	172.16.4.36
STAG2-1	172.16.4.81
STAG2-2	172.16.4.82
STAG2E1	172.16.4.83
STAG2E2	172.16.4.84
STAG2E3	172.16.4.85
STC1	172.16.4.46
STC2	172.16.4.47

**ステップ 3**  をクリックします。

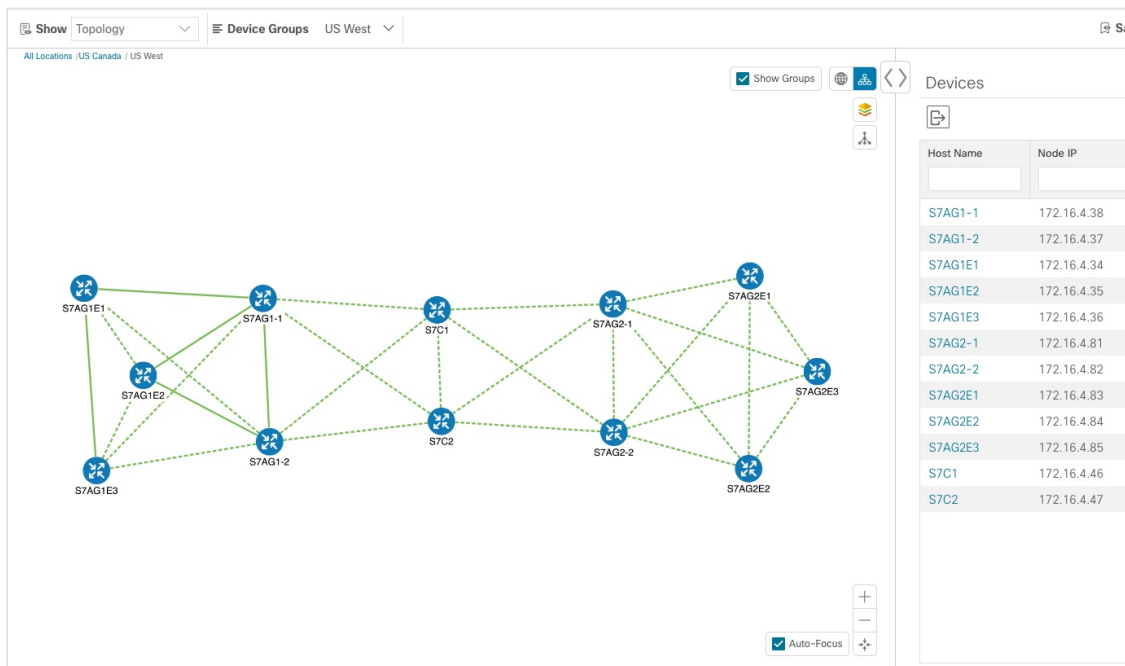
**ステップ 4** [デバイスグループ (Device Group)] ドロップダウンリストから [すべての場所 (All Locations)] を選択し、[グループの表示 (Show Groups)] がオンになっていない場合はオンにします。このビューでは、すべてのデバイスグループを表示できます。デバイスグループは、論理マップ内でのみこの方法で表示できません。

(注) [グループの表示 (Show Groups)] チェックボックスをオフにすると、すべてのデバイスグループが展開され、マップが乱雑になる可能性があります。

## デバイスグループを使用したトポロジビューのフィルタ処理



**ステップ 5** [米国西部 (US West)] グループをクリックします。この場合も、このグループに属するデバイスのみがトポジマップと [デバイス (Devices)] テーブルに表示されます。



**ステップ 6** ホスト名に S7C と入力して、[デバイス (Device)] テーブルのデバイスをフィルタ処理します。[デバイス (Device)] テーブルには、フィルタ処理の基準に一致するデバイスのみが表示されます。ただし、[デバ



イス (Device) ]テーブルをフィルタ処理しても、トポロジマップ上のデバイスは視覚的にフィルタ処理されません。地理的マップまたは論理マップ上のデバイスを視覚的にフィルタ処理する唯一の方法は、デバイスグループを使用することです。

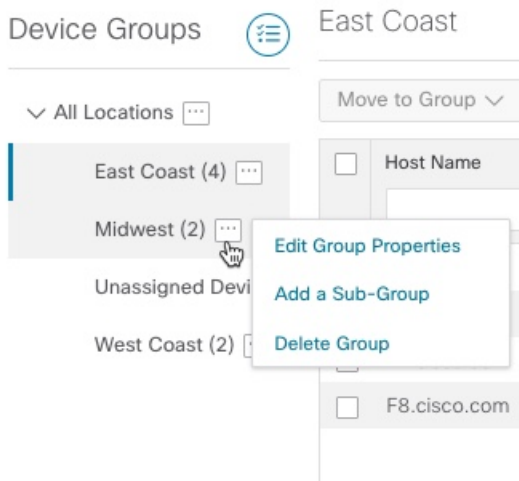
The screenshot displays a network management interface. On the left, a topology map shows a network of devices connected by lines. The devices are labeled with names like STAG1E1, STAG1E2, STAG1E3, STAG1-1, STAG1-2, STAG2-1, STAG2-2, STAG2E1, STAG2E2, STAG2E3, STC1, and STC2. On the right, a 'Devices' table is shown with the following data:

Host Name	Node IP	Oper...	Reac...	Product Type
S7C				
S7C1	172.16.4.46	OK	Re...	ciscoCRS16S
S7C2	172.16.4.47	OK	Re...	ciscoCRS16S

## デバイスグループの作成と変更

デバイスグループ、およびグループへのデバイスの割り当ては、手動（この項で説明）または自動（次の項で説明）で実行できます。

- ステップ 1** メインメニューから [デバイス管理 (Device Management)] > [グループ (Groups)] を選択します。
- ステップ 2** 新しいサブグループを追加するには、[すべての場所 (All Locations)] の横にある  をクリックします。[すべての場所 (All Locations)] の下に新しいサブグループが追加されます。
- ステップ 3** 既存グループの下で、サブグループを編集、削除、または追加するには、[デバイスグループ (Device Groups)] ツリーでグループの横にある  をクリックします。



**ステップ 4** グループの追加、削除、または編集（名前の変更または移動）を選択します。グループを削除すると、そのグループに属しているすべてのデバイスが [未割り当てデバイス（Unassigned Devices）] グループに移動します。また、グループを削除すると、そのグループのサブグループがすべて削除されます。

（注） デバイスは、1つのデバイスグループにのみ属することができます。

**ステップ 5** [保存（Save）] をクリックします。

## ダイナミック デバイス グループの有効化

デバイスホスト名で正規表現（regex）を使用して、デバイスグループを動的に作成し、未割り当てのデバイスをこれらのグループに自動的に追加するルールを作成できます。ルールに一致する新たに追加または検出されたデバイスは、適切なグループに配置されます。



（注） ダイナミックルールは、すでにグループに属しているデバイスには適用されません。ルールで考慮されるようにするデバイスは、[未割り当てデバイス（Unassigned Devices）] に移動する必要があります。

### 始める前に

[ダイナミックグループ（Dynamic Groups）] ダイアログに示されている例に従うこともできますが、正規表現に精通していると有利です。

**ステップ 1** メインメニューから [デバイス管理（Device Management）] > [グループ（Groups）] を選択します。

**ステップ 2** [ダイナミックグループの管理（Manage Dynamic Groups）] アイコンをクリックして、[ダイナミックグループ作成ルールの管理（Manage Dynamic Grouping Rule）] ウィンドウを開きます。ⓘ




- ステップ3** [他の詳細と例の表示 (Show more details and examples)] をクリックして、必要な [ホスト名 (Host Name)] フィールドと [グループ名 (Group Name)] フィールドに入力します。
- ステップ4** [未割り当てデバイス (Unassigned Devices)] グループに既存のデバイスがある場合は、[ルール of テスト (Test Rule)] をクリックして、作成されるグループ名のタイプのサンプリングを表示します。
- ステップ5** [ルール of 有効化 (Enable Rule)] チェックボックスをオンにします。ルールが有効になると、システムは未割り当てのデバイスを1分おきに確認し、ルールに基づいてそれらを適切なグループに割り当てます。
- ステップ6** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ7** この方法で作成されたグループは、最初は [未割り当てグループ (Unassigned Groups)] の下に表示されず (ルールが初めて有効になったときに作成されます)。新たに作成したグループを必要なグループ階層に移動します。
- ステップ8** 新しく作成した未割り当てグループを適切なグループに移動するには、次の手順を実行します。
- [すべての場所 (All Locations)] の横にある [...] を選択し、[サブグループの追加 (Add a Sub-Group)] をクリックします。
  - [新しいグループ (New Group)] に詳細を入力して [保存 (Save)] をクリックします。
  - 未割り当ての作成済みダイナミックグループの横にある [...] を選択し、[グループプロパティの編集 (Edit Group Properties)] を選択します。
  - [親グループの変更 (Change Parent Group)] をクリックし、適切なグループを選択します。

## マップ表示設定のカスタマイズ

ニーズと設定に基づいて、トポロジマップを視覚的な設定を行うことができます。次を実行できます。

- [リンクとデバイスの表示のカスタマイズ \(17 ページ\)](#)
- [TE トンネルのデバイスグループの表示動作の設定 \(18 ページ\)](#)

## リンクとデバイスの表示のカスタマイズ

デバイスとリンクマップの表示設定を設定するには、[トポロジ (Topology)] を選択し、トポロジマップの  をクリックします。

- 集約リンク、およびリンクの状態と使用状況を簡単に確認できるようにするリンクの色付け方法を表示するには、[リンク (Links)] をクリックします。デフォルトでは、集約リンクはマップ上で単一リンクと区別され、リンクはリンク使用率のしきい値に基づいて色付けされます。管理者は、使用率のしきい値と対応する色を変更できます。
- デバイスの状態とデバイスのラベル付けを表示するには、[デバイス (Devices)] をクリックします。デフォルトでは、デバイスの状態はマップに表示され、ホスト名はデバイスのラベル付けに使用されます。

## TE トンネルのデバイスグループの表示動作の設定

デバイスグループを選択し、選択した TE トンネル内のデバイスがグループに属していない場合に、トポロジマップに表示される内容を設定できます。動作を設定するには、**[管理 (Admin)]** > **[設定 (Settings)]** > **[ユーザー設定 (User Settings)]** を選択し、動作オプションのいずれかを選択します。

デフォルトでは、ユーザーは毎回デバイスグループビューを選択するように求められます。

## トラフィック エンジニアリングの表示のカスタマイズ

トラフィック エンジニアリングの表示設定を設定するには、**[Traffic Engineering]** > **[Traffic Engineering]** を選択し、トポロジマップで  をクリックします。

- 集約リンク、およびリンクの状態と使用状況を簡単に確認できるようにするリンクの色付け方法を表示するには、**[リンク (Links)]** をクリックします。デフォルトでは、集約リンクはマップ上で単一リンクと区別され、リンクはリンク使用率のしきい値に基づいて色付けされます。管理者は、使用率のしきい値と対応する色を変更できます。



(注) デュアルスタックリンク (集約) は、1 本の線で表示されます。

- デバイスの状態とデバイスのラベル付けを表示するには、**[デバイス (Devices)]** をクリックします。デフォルトでは、デバイスの状態はマップに表示され、ホスト名はデバイスのラベル付けに使用されます。
- IGP パスを表示するときに、IGP、TE、および遅延メトリックを表示するには、**[Metrics]** をクリックします。デフォルトでは、これらのメトリックは有効になっていません。




(注) IGP パスが集約リンクを通過する場合、メトリックは表示できません。IPv4 と IPv6 の両方のリンクがある IPv6 ネットワークを表示する場合、IPv6 メトリックを表示するには、**[Show Participating Only]** チェックボックスをオンにする必要があります。

- フレキシブルアルゴリズムのパスを表示するには、**[Flex Algo]** をクリックします。詳細については、[フレキシブルアルゴリズムの可視化](#)を参照してください。

## タイムアウトの設定

SR-TE ポリシー、RSVP-TE トンネル、オンデマンド帯域幅、および IGP パスのデータのプロビジョニングと取得のタイムアウト設定を行うには、**[管理 (Administration)]** > **[システム設**

定 (System Settings) ]>[タイムアウト設定 (Timeout Configuration) ]タブを選択します。タイムアウト期間のオプションを入力します。詳細については、をクリックしてください。



(注) SR-PCE の応答が遅い場合、タイムアウトの設定で各アクションの応答時間を変更します。大規模トポロジの設定を変更したり、遅延や負荷による SR-PCE 応答の遅延に対処したりできます。

## 簡易アクセスのトポロジビューの保存

マップ上のデバイスとリンクを再配置すると、通常、変更は保存されません。便利なマップレイアウトに簡単にアクセスするには、名前付きカスタムビューとして保存すると、毎回マップを再配置することなくすばやく取得できます。これは、多数のデバイスを含む大規模なネットワークを管理する場合に特に役立ちます。

カスタムビューを保存すると、次の設定が保存されます。

- 地理的マップか論理マップか。
- 論理マップのレイアウト内のデバイスの位置。
- デバイスとリンクの表示設定。
- デバイステーブルとトラフィック エンジニアリング テーブルで 사용되는フィルタ



(注) すべてのカスタムビューは、すべてのユーザーに表示されます。ただし、ビューを変更できるのは管理者ロールを持つユーザーまたはカスタムビューを作成したユーザーのみです。

**ステップ 1** 必要な情報のみが含まれ、レイアウトがニーズを満たすまで、現在のマップビューをカスタマイズします。

**ステップ 2** 思いどおりになったら、[ビューの保存 (Save View) ]をクリックします。

## 簡易アクセスのトポロジビューの保存

The screenshot displays a network topology map of the United States. Nodes are represented by blue icons with labels: xrv9k-5, xrv9k-3, xrv9k-6, xrv9k-4, xrv9k-7, and srpce1. Solid blue lines connect the nodes, while dashed blue lines indicate potential or unconfigured connections. The right-hand sidebar is titled 'Traffic Engineering' and includes sections for 'SR-MPLS', 'SRv6', and 'RSVP-TE'. A 'Save View' button is highlighted with a red rectangular box in the top right corner of the sidebar.

**ステップ3** 新しいカスタムビューの一意の名前を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。後でビューを変更 ([Select a saved view] をクリック) し、トポロジの編集、名前の変更、またはビューの削除を選択できます。